

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

をはじめとする 当面の取り組み

検修下回り合理化反対

1/10 第五回支部代表者会議で決定

本部は一月二十日、第五回支部代表者会議を開催し、「検修下回り合理化反対」をはじめとする当面の闘いについて討議し、次の取り組みを決定しました。

検修下回り合理化反対闘争について

検修下回り合理化は、「検修一万人合理化」攻撃として一九八一年十一月二十七日に提案されたもので、現行の車両検修体制を外注化等をもって最終的には引き取り検査と機動班のみに切り縮めようとする合理化攻撃です。

動労千葉は一九八二年三月三十一日、台検、交検等を引き続き協議とするなどの整理を行い、中央三事案の一定の集約を行いました。

しかし、動労「本部」が「引き続き協議」を送りを「働き度」方針の成果と打ち出して生産点を裏切ったことなどに規定され、当局の検修合理化攻撃は加速・拡大し、一九八二年八月二十三日提案に続いて、九月十一日、仕業、交検、交検Aから発生した臨時検査等の民託の拡大と、「能率的運営と平準化」と称する労働強化、要員削減について、「57・11ダイ改」とセットで実施するとして提案してきました。

われわれは、「57・11ダイ改」反対の闘いを通して検修合理化の先送りという成果を勝ち取るとともに、申第四号（十二月十四日）をもって動労千葉の考え方と要求を出すなかで、十二月二十七日、当局は修正提案を行ってきました。

検修合理化反対闘争は検修職場の 将来のあり方の基本を決めるもの

動労千葉は一月十二日、「第一回検修下回り対策委員会」を開催し、提案の具体的内容等について討議し、当面の取り組みを決定するとともに、団交では「車両検修業務のあり方、検修基盤の維持」「外注会社の技術力」「直営の技術力確保」「派出車検のあり方」「高令者職場と乗務員・検修の養成源資の確保」「機動検査班と引き取り検査とは何か」等について、当局を厳しく追及しました。

われわれは、検修下回り合理化について、乗務員と検修という動力車職場の一方にメスを入れる攻撃であり、「58X」を含めた国鉄労働運動解体攻撃の一環としてとらえ、団交を強化し組合要求を押し込むとともに次の闘いを配置します。

- 闘いの戦術
- ① 各支部は一月二十四日以降、全組合員を対象とする時間外及び休日労働拒否を中心とする非協力行動実施の準備体制を確立すること。
 - ② 各支部は一月二十四日以降、全組合員を対象とする減産（A）行動実施の準備体制を確立すること。

中江選挙闘争について

全組織をあげた、十一月・十二月の行動によって、船橋市に「中江旋風」を巻き起こしました。中江必勝を勝ち取るために、オルグ団の充実、強化が決定的に重要であり、第三次行動（後期）と二月第四次行動への全組合員の総決起と、一人五票獲得運動の貫徹に向け奮闘しなければなりません。

83 春闘について

中曾根反動内閣の賃金抑制攻撃により、人勧は凍結となり、仲裁裁定は「議決」されたものの、夏季年当、年末手当のハネ返りをめぐり配分交渉はストップしたままの状態にあります。加えて日経連は、一月十一日83年賃上げを定昇こみ二割（実質ベアゼロ）におさえこむと発表するなど、83春闘をめぐる状況は厳しいものがあります。

われわれは、生活実態調査を早急にすいあげ、動労千葉の新賃金要求を出すとともに、春闘前段の闘いとして仲裁完全実施・年度末手当要求の闘いを総評が提唱する「反角」行動と結合させて闘います。

当面の取り組みとして、「動労千葉83春闘総決起集会」を、三月十六日、十七時三十分より千葉市民会館で開催します。一月二十六日、ロッキード・中曾根内閣弾劾集会に全力結集します。

統一地方選挙闘争について

83年政治決戦勝利に向けて、動労千葉の推薦候補の必勝を勝ち取る。 （候補者名は日刊動労千葉第一二四六号参照）